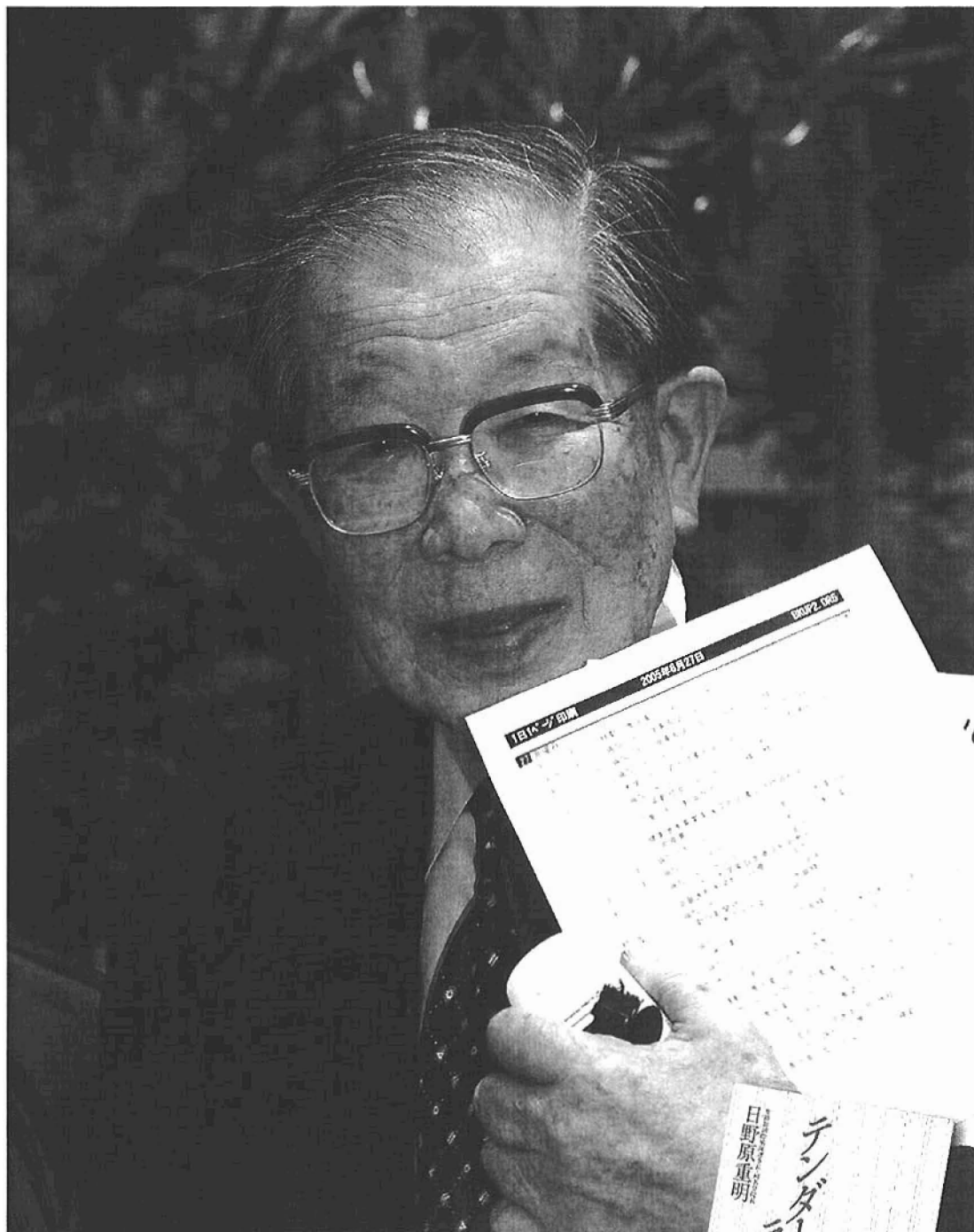


CMP
United Business Media

切り抜き情報誌

高齢社会ジャーナル



9

2005 Sep

巻頭インタビュー

元気の源は三年先までのスケジュール

聖路加国際病院名誉院長 日野原重明さん

704 いちおし
発想の転換「再資源」としての紙おむつ

【連載】新人間のいる風景 山田禎一



日本初紙おむつのリサイクル工場

発想の転換「再資源」としての

おむつ



トータルケア・システム株式会社

お問い合わせ▼092-433-1033

トータルケア・システムは国内初の使用済み紙おむつのリサイクルプラント（福岡県大牟田市）の稼働を開始した。足かけ八年にわたる研究の事業化である。紙おむつを利用する病院・老人ホーム等の現場から今、熱い視線を浴びている。同プラントの生みの親である長武志社長に聞く。

環境・資源に配慮したプラント

年毎に増加する大人用使用済み紙おむつ。環境にやさしい処理法はないかと考えていたという。はじめ自社焼却施設建設を思い立つが、所沢をはじめ全国のみ焼却施設でのダイオキシン問題が発生した。そこで環境にやさしく「火を用いない水処理は」と発想を転換し、三つの事を試みる。



長年リネン業界に開いた経験から、ポリマーが塩によって溶解す

ることは知っていた。しかし学術的裏付けがなかった。同事業を社会システムとして機能させるためにまず、学術的裏付けを確立する。松藤康司教授（福岡大学・工学部）の助けを借りての基礎実験を進めたのである。つぎに自治体からの協力を得て産学官共同開発事業として取り組みを推進。三つ目には経済産業省や

県のさまざまな補助金も活用しながら事業化を目指し、「再生処理法」の特許も取得するという快挙をなしたのである。

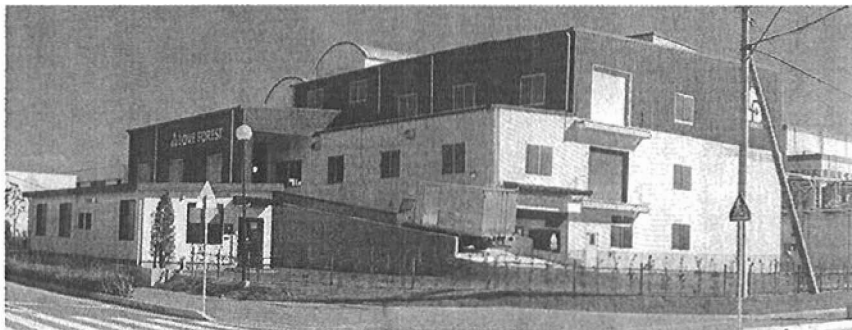
二次的「ごみ」を一切出さない「再生システム」

再生システム施設は一日20t（紙おむつ十萬枚分）の処理能力をもっている。おむつが含む尿が14t、残り6tがおむつの材料で、上質パルプ、ポリマー、ビニール、低質パルプに分類される。上質パルプは再び紙おむつに（実際上は五回まで再利用可）、低質パルプ、ポリマーは土壌改良剤や肥料に活用され、二次的なごみを一切出さない。

土壌改良剤で綿花栽培

松藤教授の下、面白い実験が展開されている。

肥料としての低質パルプの再資源化である。博多湾の人工島6000㎡の土地で綿花が栽培されていくのだ。そしてこの11月の収穫が待たれている。「収穫した綿花でオリ



ジナルなおむつを自主製作したい」と夢もさらに広がっている。来年には、高齢者のためのファッションショーにも協力する。



100億枚の紙おむつも再資源

政府が取り組む3つのR運動、リデュース（ごみの減量）、リユース（再利用）、リサイクル（再利用）。高齢者の紙おむつも「大切な資源」と考える発想の転換である。

限りある資源の有効活用を訴えるケニアのワンガリ・マタイさん（環境分野で初のノーベル賞受賞者、「もったいない運動」を推進世界に広がりを見せている）にもぜひ見てほしい施設である。

高齢化と共に増え続ける紙おむつ。全国で排出される紙おむつは年間100億枚。同プラントは始まったばかり、再資源として商業ベースに乗せる目途はすでに出来上がっている。今後は、全国展開である。

●御社の「いちおし製品」をお知らせ下さい。